令和２年８月

山梨ライトハウス

第88号

発行／社会福祉法人 山梨ライトハウス　〒400-0064 甲府市下飯田2-10-1
TEL/055-222-3502 FAX/055-233-0124 URL http://yamanashi-lighthouse.or.jp/

情報文化センター　電話／055-222-3502
貸出・用具専用／055-223-1113
青い鳥ホーム　電話／055-252-8994
青い鳥成人寮　電話／055-224-5060
青い鳥支援センター　電話／055-267-7480
青い鳥老人ホーム　電話／0553-26-6631
青い鳥ケアホーム　電話／055-235-5566

社会福祉法人 山梨ライトハウス

山梨ライトハウスの理念は「視覚障害者の未来（あす）を照らす光の道標（みちしるべ）となること」です。

CONTENTS

巻頭言……1
特集 山梨ライトハウスのコロナ対応　‥2～4
青い鳥成人寮開設記念お祝い会‥‥5
青い鳥老人ホーム流ステイホーム……6
野外活動（青い鳥ホーム・青い鳥ケアホーム）　‥6
第66回白い杖愛護運動月間実施要綱　‥7
お知らせ……8
川柳……8

福祉って…

青い鳥ホーム兼青い鳥ケアホーム
管理者　久保　育枝

広報誌『山梨ライトハウス』も今回で八十八号。今まで何度か原稿を書かせていただいたが、今回はなかなか筆が進まない。新型コロナウイルス感染症や豪雨災害など心が痛む話題の渦中にいるからか、或いは今回は名前も載るという重圧からか。いずれにしても、どうせなら明るい話題はないかと、我が家の中を見渡した。

『みえるとか　みえないとか』という絵本が目に留まる。ヨシタケシンスケさんという、出版される絵本は次々とベストセラーになっている人気作家の本である。どの本も、力が程よく抜けた画風と哲学的な内容とのギャップがおもしろい。表紙が可愛くて子供に買い与えた。

主人公は色々な星に旅をして色々な〝そのほしのひとたち〟に出会う。ある星で目が三つあるから後ろも見える〝ひとたち〟と出会い、目が二つだから後ろがすぐに見えないことを「かわいそう！」と言われてしまう。自分にとっては当たり前なのに気を遣われてしまい、違和感を抱く主人公。空を飛べる〝ひと〟の星、口が長い〝ひと〟の星などを思い出しながら、また、全然見えない〝ひと〟と仲良くなりながら、人との違いをどう捉えていくのか…。理屈っぽくでもなく、自然に読み手にも考えさせてくれる。

小学校では平成三十年度から道徳が教科化された。また、総合的な学習の時間でも福祉教育を扱うことが増えた。それに対し、答えがひとつでない道徳をどう評価するのかとか、机上で学ぶのではなく自然に…が理想ではないか、といった考えもあるかもしれない。しかし、福祉の授業があった日の夜に我が子は、「福祉って、福がみんなの心にとまるってことなんだね」と言った。祉という字はまだ習っていないので、止まるという字を含むことから連想したのだろう。また以前に施設の行事へ利用者と共に参加した時の感情も、子供なりに振り返っていた。子どもは絵本であれ、授業であれ、実体験であれ、ごく自然に受け入れて学んでいくのだと気付かされた。

自身を振り返ると、最近は利用者と関わる時間より、パソコンと向き合う時間や事業全体を考える機会のほうが増えてきた。そんな時だからこそ、余計に我が子のこの言葉は心に刺さったのだと思う。福祉職に就いてまだ二十年。これまで出会った利用者の笑顔や成長は、確かに私の心に「幸福」となって生きている。衰えやお別れも、その時期に関わらせていただいたということは「支え」になっている。

本来「福祉」とは、幸せや豊かさの意であるが、それは与えるとか与えられるという一方通行のものではない。互いに幸せを感じることで本当の「福祉」と言えるのではないか。社会人の折り返しを過ぎたこれからは、少しでも多くの「幸福」をみんなと心で共有できる仕事を目指していきたいと思う。

『みえるとかみえないとか』
ヨシタケシンスケ著（アリス館刊行）

特集　山梨ライトハウスのコロナ対応

●情報文化センター●

情報文化センターでは、視覚障害者の文化の向上や自立支援のために、図書館事業を中心とした相談、訓練等の事業を行っています。

コロナ禍で最初に影響を受けたのが、蔵書を製作するボランティアの皆様でした。施設利用の自粛に伴い蔵書の製作活動はストップし、いつも活気に満ちているセンター二階は、静寂に包まれました。このような状況は他の図書館も同様で、蔵書製作の遅延や雑誌の休刊などで、図書を楽しみにしている読者の皆様には、大変なご迷惑をおかけしました。

IT機器の相談では、リモート会議をするためのソフトやその使い方、パソコンの設定方法などの問い合わせがありました。また、視覚障害者の多くは外出する際に、同行援護サービスを利用します。しかし、このご時世では、感染予防のために派遣の自粛を行っている事業所もあったようで、外出困難により拍車がかかったのではないかと思います。

そんな中、県立盲学校から見学の申し入れがありました。例年、新入生や新着任の教員が訪れますが、今回はビデオを片手に先生が一人で訪れました。施設紹介や図書の借り方、日常生活用具の説明・体験などの様子を撮影していきました。わずかな時間でしたが、このビデオを参考にして生徒の皆さんには、一日も早くセンターを活用いただければと思います。

用具体験の様子

ビデオを片手に貸出の説明を受ける盲学校教員

二月下旬から始まった施設利用の自粛は六月に終了し、七月一日から感染予防対策を講じたうえで再開しました。入館時の手指消毒、マスクの着用、一日二時間までの滞在時間などの施設利用についてのきまりに従っていただくほか、氏名や滞在時間などを記入する「チェックシート」を提出してもらうなど煩雑になりましたが、利用者の皆様には「再開されて良かった」と快く協力いただいています。

この原稿を書いている今、全国では、連日千人を上回る勢いで感染者が増えており、まだまだ予断を許さない状況です。今後もしっかりと感染予防対策を行っていかなければならないと感じています。

半分の利用で再開した録音室

玄関に設置された消毒と施設利用チェックシート

●青い鳥老人ホーム●

五月中旬、山梨県の緊急事態宣言が解除された頃より、「もう外出しても大丈夫ってことだよね」「いつになったら外に出られるの」などと、新型コロナウイルス感染症が終息したかのような発言が利用者間で飛び交うようになりました。

ほぼ毎日ニュースで流れている話題であっても、専門家が口にする聞き慣れない言葉を高齢者が正確に把握することは著しく困難です。マスクの着用・手洗いの徹底を職員が繰り返し呼び掛けても、「コロナって言っても風邪みたいなものでしょ」と安心しきっている利用者もいれば、「私は絶対にかからない」と自信たっぷりに話す利用者も…。

利用者に正しい知識を持ってもらいたいという思いで、全利用者を対象とした新型コロナウイルス勉強会を六月十日に開催いたしました。当ホームの看護師が講師となり、新型コロナウイルス感染症の症状や予防法について、分かりやすく説明したことが功を奏したのか、その後マスクの着用率がアップし、手洗い、うがいを念入りに行う利用者が多くなったと感じます。

この他、職員間では、万が一感染症が発生した場合に備え、具体的な対応手順等を示した対応マニュアルを策定し、それに基づいた予行演習も繰り返し行っています。新型コロナウイルス感染症の脅威から利用者を守るため、全職員力を合わせて、この難局を乗り超えていきたいと思います。

手洗いはよく泡立てて丁寧に

正しい知識を身につけましょう

●青い鳥ケアホーム●

青い鳥ケアホームは、障害がある方が地域で暮らすグループホームです。第一、第二、第三の建物に、合わせて十四名の入居者が生活しています。普段はそれぞれが日中活動事業所に通所し、その事業所数は六か所です。ご自分で公共機関を使って通所する方もいます。毎週末、自宅へ帰るのを楽しみにしている方もいます。また、男性と女性の短期入所を一部屋ずつ併設しているので、普段は在宅で暮らす方がご利用になることもあります。

このように、様々な社会資源と共に機能しているのがグループホームですから、新型コロナウイルス感染症予防についての対応についても苦慮しました。まずは各日中活動事業所がどのような対応をするのか、それによって個々の利用者毎に対応を検討しました。

入居者の毎朝・夕の検温はもちろんのこと、日中活動事業所とは連絡帳を活用して利用者の体調管理を協力して行いました。通所が出来なかったり半日のみの稼働となった事業所へ通所する利用者への対応としては、日中にも職員を配置して散歩やドライブ、食事の提供などの支援をしました。また、短期入所はお断りすることはせず、お受入れ時の検温や家庭でのご様子を聞き取る等して感染予防に努めつつ事業を継続しました。

そのような中、入居者が通所する事業所が関連している施設において発熱者のPCR検査を実施したケースが、四～五月に二例発生しました。その連絡を受けた時には、青い鳥ケアホーム内でも緊張が走りました。それまでも検温、うがい、手洗い、手指消毒、マスクの着用、食事は自室で食べて頂くなど、考えうる予防策は講じていたのですが、更に、入浴の順番の見直しや、二か所あるトイレの使い分けなどの取り組みをしました。陰性の報告を受けた際には、職員一同ホッとしたのと同時に、お会いしたことのない検査を受けられた方に対しても「良かったですね」という気持ちになりました。

七月現在では、食事は以前のようにリビングでみんな一緒に食べています。おいしい食事を作ってくれる世話人さんには感謝です。皆でしっかり食べ、しっかり眠って、しっかり笑って免疫力を高めつつ、引き続き警戒していきたいと思います。

適度に身体を動かしています

●青い鳥ホーム●

青い鳥ホームは、「はり師」「きゅう師」「あん摩マッサージ指圧師」の資格を持つ、視覚に障害がある方が、一般のお客様に施術する治療院です。日本政府が四月十六日、全国へ範囲を広げて緊急事態宣言を発令する前の四月十三日から、マッサージの理療訓練という事業内容を踏まえて休業の措置を講じました。利用者の皆さんは、住まいである同一法人のグループホーム内でラジオ体操をしたり、職員と近隣を散歩したり、居室整理等をして日中を過ごしました。

五月十七日からは、ひとまず青い鳥ホームに通所し、施術を強く希望する顧客のみお受入れを始めました。マスクの着用と手指消毒は従来から実施しているため、それに加えて施術時間の短縮、換気等の配慮をすることにしました。中には再開した日にすぐ来院された方もいらっしゃいましたが、前年の同時期と比べると顧客数は大幅に減少してしまいました。

ただ、新型コロナウイルス感染症予防の対応で良い影響も二つ見られました。一つ目は、他事業所へ通所出来ない青い鳥ケアホームの利用者と共に過ごしたことで、マッサージ以外の他の活動もやってみようという気持ちが、青い鳥ホームの利用者にも芽生えたことです。縫い物では器用に針を動かしますし、七夕飾りの製作や緑が丘スポーツ公園への散歩、レクリエーションなど日中活動は充実しました。もう一つ良かったことは、青い鳥ケアホームの職員が関わることが出来たことです。単純に職員数が充実しただけでなく、盲人ホームには配置義務のない生活支援員が日中に関わることで、職業指導員や生活指導員とは違うアプローチもできました。職員のそれぞれが専門職として相談し合いながら進めていきました。

このように、青い鳥ホームでは今回の対応をプラスに捉え、前々からの課題でもあった顧客確保や日中活動の充実について引き続き、模索していきたいと思います。

ケアホームの利用者も
マッサージ練習相手として一役買いました

日中活動の様子

●青い鳥成人寮●

日本における初めての新型コロナウイルス感染者が確認された一月、青い鳥成人寮では、インフルエンザなどを対象とした感染症対策を行っていました。こうした中で、看護師から「危機感を持って欲しい」との忠告もあり、また一時は、マスクやゴム手袋、消毒液、液体石鹸などの在庫を心配しなければならない状況となるなど、新型コロナウイルスに対する不安が日増しに大きくなっていきました。

三月頃から、感染症対策の対象は新型コロナウイルスへと変化していき、四月には、嘱託医からのご意見も頂き、「手洗い、消毒」を基本としつつ、青い鳥成人寮としての総合的な新型コロナウイルス対策を決定しました。

この対策の実施に伴い、利用者の買い物自粛、家族との面会や帰省の自粛、職員の他県への移動自粛、出勤前の検温、職場における2回の検温・手洗い及びその記帳など、徹底した取り組みを行いました。

また、危機対応をより明確化するため、看護師が中心となって、利用者、職員、職員の家族がそれぞれ新型コロナウイルス感染疑いとなった場合における、報告や行動の手順をまとめたフローチャートを作成しました。

さらに、利用者が新型コロナウイルスに感染し、障害特性などから施設内での療養を行うことを想定して、感染した利用者の療養する場所を具体的に検討し必要な準備を進めるとともに、全ての職員を対象に、介護等の方法や感染防止のためのガウンテクニックなどについての施設内研修を行いました。

個人防護用具を使用して熱発利用者に対応する職員

感染防止のためのガウンテクニック研修

その研修の翌日、発熱が四日間続いた後に肺炎症状が出た利用者がPCR検査を受けることになりました。検査結果が陽性であることを前提として直ちに全体会議を行い、フローチャートに沿って全利用者の居室待機、施設内療養の場所の準備、食事の居室対応、寮内の徹底した消毒などに着手しました。

研修を受けた職員でも準備や利用者対応に手間取り、利用者自身も急激な生活の変化に戸惑いの表情を浮かべるなど、寮全体が緊迫していました。検査結果は陰性でしたが、全ての職員が長く不安な一日を過ごしました。

こうした教訓をもとに、『新しい生活様式』を定着させ、かつ利用者と職員が感染状況に応じた行動をとれるよう、感染対策を四段階に分けたレベルマップを作成しました。

緊急事態宣言解除後、新型コロナウイルス感染者が再び増加しており、今後は、インフルエンザの流行も見据えた長期的な対策が必要となります。

以前のようにマスクを付けず、利用者と一緒に買い物や外食を楽しみ、公園を気兼ねなく歩ける日が早く来ることを祈りながら、今後も新しい情報と日々の教訓を踏まえ、利用者とともに感染防止対策を進めていきたいと思っています。

●青い鳥支援センター●

支援センターでの感染拡大を防ぐ対策について紹介します。なかなか手に入らなかったマスクは裁縫が得意なスタッフが手作りし、来訪者の方には センター入り口での検温や消毒の徹底をお願いしています。また、スタッフ一人ひとりの毎朝の検温、うがい手洗いの徹底などは現在も継続しています。訪問介護を担う支援センタースタッフはマイ消毒を持ち歩きこまめな対策を欠かしません。このような対応を行うことでスタッフ及び家族の皆様が相互に安心できるサービスを提供しています。

また、日中一時支援事業も感染拡大を防ぐため五月末まで週末の活動を自粛しました。利用者がいない部屋はとても広く寂しかったです。六月から再開した活動ですが、しばらくは有償運送事業の縮小や定員制限等を設けながら対応していきます。

そんな中での心温まるエピソードを一つご紹介します。学校が休みになった間、センターを利用してくれる利用者は青い鳥成人寮の給食を注文して食べていました。普段と違う味付けや内容に最初は戸惑う利用者も多かったのですが、手作りの給食はやはり美味しい！苦手だった野菜が食べられるようになったり、皆と食べる事で食事量が増えたりと嬉しい発見が多くありました。ある利用者は家族の皆様も驚くくらい色々な食材が食べられるようになりました。私たちも毎回給食の時間が楽しみで家族の皆様と喜びが共有できました。大変な期間はまだまだ続きます。しかし、小さな発見や喜びを力に変えて皆で乗り越えて行きましょう！手作りマスクを寄付していただきましたご家族の皆様本当にありがとうございました。

入口に設置された消毒

青い鳥成人寮開設記念お祝い会

6月1日、青い鳥成人寮は、開設４４周年を迎えました。今年は新型コロナウイルスへの対応のため、開設記念のお祝い会を女性棟、男性棟で別々に開催しました。

【開設記念お祝い会 ～女性棟～】

六月十七日、まずは女性棟のお祝い会です。視覚・肢体などの障害や年齢にかかわらず楽しめるゲームで盛り上がりました。造形の時間に手作りした金魚を団扇ですくう金魚すくい、手の感覚を頼りに見つけるお宝探しや職員の名前ビンゴなど。それぞれゲームに苦心しつつ達成感もあり、喜びの笑顔がいっぱいでした。成人寮の歴史を振り返る○×クイズでは、正解がどちらか過去の記憶を思い出しながら、身体を動かすことで頭も身体も生き生きと楽しめました。職員バンド「BBBB」による音楽演奏は、男性利用者も集まり、廊下で距離をとりつつ一緒に歌って踊って大盛り上がりでした。

お宝たくさん出てきたよ

真剣に金魚をすくっています

【開設記念お祝い会 ～お食事会～】

お祝いのお食事会は、男女ともに食堂とホールに分かれ、「三密」を避けて行いました。利用者の音頭でコップを掲げて乾杯です。皆さん大好きなお寿司、唐揚げやフライドポテト、最後にデザートのパフェとたっぷりメニューを食べ、お腹も心も大満足でした。また来年も、皆で元気に成人寮の誕生日をお祝いしましょうね！

ソーシャルディスタンスを保っての食事会

【開設記念お祝い会 ～男性棟～】

続いて男性棟は六月二十四日、思い出スライドショー鑑賞会からお祝い会のスタートです。昔からの写真を見ながら、成人寮の歴史を振り返りました。場面ごとに職員が説明していくと、当時の情景が思い起こされるようです。旅行や行事の写真を見ながら、「覚えているよ」「懐かしいね」「楽しかったね」と、思い思いの気持ちを話されていました。午後はレクリエーションで、玉入れと物運びリレーを行いました。周囲の声援を受け、お菓子の景品を目指して一生懸命身体を動かし楽しい時間を過ごしました。最後は景品のお菓子をテーブルに広げて、パーティーの始まりです。ジュースも一緒に飲みながら、色々なお菓子を食べました。今回のイベントも青い鳥成人寮の新しい思い出に加わりました。

バランスゲーム、落とさずにゴール出来るでしょうか

皆でお菓子を食べました

【青い鳥成人寮 職員バンド】

「こんにちは。Blue Bird Big Band 略してBBBBです！」バンドメンバーは成人寮に勤める職員で構成されています。音楽が大好きな成人寮の利用者に楽しんでもらいたいとの想いで、九年前に結成しました。

「自分の楽器を持っていないが、経験はある」「中学高校と吹奏楽部に所属していた」など楽器の経験年数も、年齢もバラバラですが、開設記念やクリスマス会などのイベントで演奏しています。私たちの生の音で、利用者の気持ちが少しでも明るく穏やかなものとなりますように。そんな願いを込めて。

距離はあっても心は一つです

青い鳥老人ホーム流ステイホーム

感染症対策とともに老人ホームでは外出できずにもやもやしている利用者に体を動かし、笑ってもらえるようなレクリエーションを暗中模索する日々です。その中で好評だったレクリエーションを紹介します。

一つ目は、おやつ作り、気の合う仲間同士ホットプレートを前に昔懐かしい「うす焼き」に舌鼓。職員の中には、うす焼きを食べたことのない人も多く利用者の反応が気になりましたが、「懐かしい味だ」「昔を思い出す」「桜えびなんて入っていなかった」などそれぞれの「うす焼き」の思い出話がたくさんの笑顔とともに聞かれたレクリエーションでした。

もう一つは「洗濯リングdeさくらんぼ狩り」です。室内で行うさくらんぼ狩りは、高齢利用者も気軽に参加出来て、次から次へと旬のさくらんぼを食べていました。最後には種飛ばし大会。一番種を飛ばしたのは、老人ホーム最高齢の利用者でした。「最近外に出られないけれど、こういう形でさくらんぼ狩りが出来てよかったよ」との声が聞かれました。

楽しく過ごしてもらおうと考えてレクリエーションを提供していましたが、利用者一人ひとりの中に詰まっている楽しさや笑いを引き出していくことが、元気に過ごしてもらえる秘訣なのではと感じる今日この頃です。長丁場が予想される新型コロナウイルス対策の中でも、手づくりレクで老人ホーム流ステイホームを楽しんでいただきたいと思います。

このうす焼きいけるね

思わず笑みがこぼれちゃうわ

種飛ばし大会初代チャンピオン

思い切り飛ばしてください

何個でも食べられちゃう

野外活動（青い鳥ホーム・青い鳥ケアホーム）

●緑ケ丘公園にピクニック

青い鳥ホームから徒歩三十分、皆さん大粒の汗を拭きながら公園に到着。自然豊かな公園の木陰にブルーシートとお昼寝用の布団を広げました。公園では青空の下、ラジオ体操で体を動かし、サッカーやブーメラン、シャボン玉飛ばしをして楽しみました。

野外で食べるテイクアウトした弁当も美味しく、食事の合間の談笑も普段より楽しく感じられました。

食後はそよそよと葉が揺れる風、最高なシチュエーションの中でお昼寝。開放的な場所で自然を満喫しちょっとしたピクニック気分を味わい、身体も心もリフレッシュできました。

●さくらんぼ狩り

初夏の訪れとともに可愛らしい実をつけるさくらんぼ。さくらんぼが食べ頃の季節がやってきました。さくらんぼは皆さんの大好物です。

「思う存分食べたい」と皆さんの希望で六月十五日梅雨の晴れ間、十二名十一匹でさくらんぼ狩りに行きました。車内では「昼食は腹八分目、さくらんぼをお腹に入れる場所をとっておいたよ」「さくらんぼは別腹だよ」と各々笑い声が聞かれ三十分の道のりもあっという間に過ぎ目的地に到着。

赤々とした実が樹に沢山なっており、手にとり次々とさくらんぼを口に運んでいました。合計何個の種が飛んだでしょうか？甘酸っぱくておいしいさくらんぼ…初夏の味を楽しんできました。

追伸：盲導犬のチロルもしっかりとお仕事をしていました。

これが甘いかな？

赤々としたさくらんぼ

第66回白い杖愛護運動月間実施要綱

1　趣　旨

県民の一人一人が、目が見えない・見えにくい方たちを正しく理解し協力するとともに、目が見えない・見えにくい方たち自らも積極的に自立し、進んで社会活動に参加することのできる「ユニバーサル社会」の実現を目指す県民運動です。

2　主　催

山　梨　県
山梨県教育委員会
社会福祉法人 山梨ライトハウス

3　後　援

山梨県社会福祉協議会　山梨県市長会　山梨県町村会　山梨県共同募金会　山梨県連合婦人会　山梨県交通安全協会　山梨県公立小中学校長会　山梨県高等学校長協会　山梨日日新聞社　山梨放送　ＮＨＫ甲府放送局　読売新聞甲府支局　テレビ山梨　山梨県立盲学校　山梨県障害者福祉協会　山梨県ボランティア協会　山梨青い鳥奉仕団　山梨県視覚障がい者福祉協会　山梨県眼科医会　山梨アイバンク　山梨県タクシー協会　山梨交通株式会社　富士急行株式会社

4　実施期間

令和2年11月1日～令和2年11月30日の1ヵ月間

5　運動の目標

◎安全な移動環境の整備

①目が見えない・見えにくい方を見かけたら、必要に応じて声をかけ、協力する。
②安全に路上を歩行したり、公共交通機関を利用できるよう環境を整備する。
③公共交通機関、飲食店、宿泊施設等へ盲導犬を同伴できるよう啓発する。

◎生きがいある自立就労支援の拡大

①中途で目が見えない・見えにくくなった方からの相談や自立訓練に応じ、日常生活や社会生活の質の向上をはかる。
②関係機関と連携をとりながら、職能訓練等を通じて雇用継続及び就労の拡大をはかる。
③鍼灸マッサージ業を守り、無資格者をなくすとともに、ヘルスキーパー（健康管理理療師）などの職域の拡大をはかる。

◎文化情報サービスのバリアフリー

①公共図書館と情報の共有・連携をはかり、障害者サービスの一層の充実につとめる。
②公共機関等での情報の点字化・音声化を進めるとともに、広く点字の普及につとめる。
③代読・代筆、点訳・音訳サービスなどの支援やＩＣＴ（情報通信技術）機器を目が見えない・見えにくい方自らも活用し情報の収集につとめる。

◎交流・啓発活動の拡大

①盲学校、視覚障がい者福祉協会、山梨ライトハウス等、地域との交流を一層推進し、相互に協力する。
②白い杖愛護作文、福祉講話などを通じて児童生徒とのふれあいを深め、「共に生きる」思いやりの心を育成する。
③スポーツ、レクリエーション、その他趣味活動を通じて交流の機会を拡げる。

6　運動月間行事

①白い杖福祉の集い

日時　令和２年11月1日（日）
場所　山梨県立盲学校体育館
内容　奉仕者知事表彰
白い杖愛護作文・生活体験文表彰
※今年度は、感染症予防のため規模を縮小する予定です。

②運動月間の周知

各支援団体、報道機関を通じてこの運動の趣旨及び活動内容を周知し、理解を深める。

生活体験文受賞者（昨年度）

生活体験文を朗読する受賞者（昨年度）

お知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次の事業については中止することといたしました。

○山梨ライトハウス納涼祭（例年8月実施）

○令和2年度同行援護従業者養成研修（例年9月実施）
受講を検討されていた方や事業所には、大変ご迷惑をおかけしますが、ご了承をお願いします。
次年度以降、実施が決定した場合には、速やかにホームページ上などでお知らせします。

○第2回県下視覚障害者交流スポーツ・レクリエーション祭（昨年10月実施）

川柳　浅川 和多留　選

●六月のライトハウス川柳会から

三密を守る心へ望みあり　桑原　梅次

若者がパソコン操作あざやかに　藤野　ます子

ウイルスは御免とばかり遠くなり　堀内　孝春

これ川柳なるほど字数合っている　岡部　恵子

生きてゆく楽しみくれた声の図書　佐野　しま

米寿過ぎ丸い背中に陽の温み　本間　りょう

お祭りになるほど屋台が付きにけり　相沢　幸雄

蕗蕨（ふきわらび）なるほどうまい旬の味　埜村　和美

なる程のいい作品が見当たらず　細川　一

なるほどと友の心が晴れわたり　加藤　隆

●青い鳥老人ホーム川柳

初対面心開いて打ち解ける　影山　笑美子

エレベータードアが開いて並ぶ人　三森　秋江

独り言開く心が奥見えぬ　佐野　英夫

世の中は鍵がなければ不用心　佐野　武重

寄り合って年に一度のいとこ会　橘田　喜美江

便利な日常生活用具の紹介

今年の夏は、感染予防のためマスクが欠かせないですね。それだけに熱中症には一層注意が必要です。
そこで、音声と光で温度や湿度をお知らせする「おしゃべり温湿度計」をご紹介します。

<商品紹介>

●手のひらに載るサイズのネコやライオンの形をした、音声と光でお知らせする温湿度計です。

●頭を1回押すとおしゃべりを、2回続けて押すと温度と湿度を音声でお知らせします。
おしゃべりは、にゃんこ計では「お散歩してきてもいい？」「ニャーニャー」、ライオンでは「僕、狩りの練習中！」「探検に出かけたいなぁ」などそれぞれ動物の特徴を表すようなおしゃべりをしてくれます。

●温度と湿度のお知らせは、「温度は25℃、湿度は39％だよ。この調子で行こう！」のようにコメントも言ってくれます。熱中症やインフルエンザ対策にも役立ちます。
また、10分に一度尻尾の光で部屋の状態を判断できます。
赤は警告、黄色は注意、緑は快適な状態を表します。

にゃんこ計ミケネコ

ライオンのおしゃべり温湿度計

<仕　様>
・価格：3,040円（別途送料が510円かかります）
・大きさ：
にゃんこ計 ミケネコ
（幅）60×（奥行）105×（高さ）72mm
ライオンのおしゃべり温湿度計
（幅）95×（奥行）105×（高さ）83mm
・重さ：150g
・使用電池：単4電池3本
・メーカー：ハシートップイン
・取扱説明書：音声（一般CD）
※「にゃんこ計」は、ライトハウスに見本があります。

●興味のある方、お求めになりたい方は、
情報文化センター055-223-1113までどうぞ

◎編集長　安藤輝雄　○編集委員　細川純子、小林康司、権守裕子、芦澤康子、小畑栄一、原田直幸
※皆様からの情報をお待ちしております。